



2022年12月号

ウトナイ湖通信

No.223

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 発行

トピックス

ウトナイ湖野生鳥獣保護センターでボランティア活動してみませんか？

当センターのイベントや調査などの各活動は、ウトナイ湖野生鳥獣保護センターボランティアの皆さんのサポートで、実施することができています。現在 25 名の方に登録いただいています。ウトナイ湖の自然を守るためのボランティア活動には、様々な内容があり、多くの皆さんにそれぞれの得意分野で、ご活躍いただいています。

ウトナイ湖野生鳥獣保護センターの様々なボランティア活動



館内の清掃活動



イベントの受付



展示物の作成



ゴミ拾い活動



自然情報収集調査



湖の水鳥カウント



館内案内



イベント時の説明



観察会のガイド

ボランティア体験講座を開催中、参加してみませんか？

当センターのボランティア活動を知っていただくため、定期的に「ボランティア体験講座」を開催しています。センターの概要や活動の紹介の他、実際に調査活動を体験いただく内容となっています。体験講座を受講いただくと、ボランティア登録いただくこともできます。次回は 12 月 18 日（日）に開催予定です。詳細は最終ページをご覧ください。



ウトナイ湖全域水鳥カウント調査 日記 2022年11月17日(木)15:00~16:00

レンジャー、ウトナイ湖サンクチュアリサポーターの計3名で実施し 14 種 1,103 羽を確認しました。870 羽ほどのマガンの群れや、120 羽以上のオオハクチョウが確認されたものの、広いウトナイ湖では遠くに小さく見える形となりました。また、オオワシ(幼鳥)を、今季初確認しました。他には、カワアイサが 50 羽ほど見られましたが、非繁殖羽の時期で、まだオスメスの判断はつきませんでした。



ダイサギは岸辺に集まったり、飛んだりしていた。



カワアイサは、群れを作って、頻りに水に潜っていた。



オオハクチョウは灰色の幼鳥も混ざっていた。



寒くなったが、まだ夏鳥のカワセミが 3 羽も確認された。

自然情報収集調査 日記 2022年11月17日(木)10:00~11:30

レンジャーと当センター登録ボランティアの計4名で実施しました。葉が落ち、見通しが良くなった林ではハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、コゲラなどが観察できました。またマガンのテラスから湖を見ると、遠くにマガンの群れが見られました。ほかに、キタコブシのふわふわの冬芽、オビカレハやマイマイガの卵、タケカレハかヨシカレハの繭などの生き物が見つかりました。



野鳥、植物、昆虫など、様々な自然を探すボランティアさん。



コゲラは幹をつついてエサを探している様子だった。



タケカレハかヨシカレハの繭。黒点は毒針毛なので注意。



平べったいマイマイガの卵。触るとかぶれることがある。

12月の自然予報

秋の木々には、様々な実がなります♪

木々の葉が落ちて、林の野鳥たちが見やすくなります。中には、夏には見られなかった野鳥もいるかもしれません。ゆっくり散歩をしながら探してみませんか？



【ハシブトガラ】
全長約 12cm
1年中見られる留鳥。
ベレー帽が特徴。



【キバシリ】
全長約 14cm
1年中見られる留鳥。
幹を下から登る。



【ゴジュウカラ】
全長 13cm
1年中見られる留鳥。幹を逆さで下りることができる。



【エナガ(亜種シマエナガ)】
全長 14cm
1年中見られる留鳥。
「ジュリッ、ジュリリ」と鳴く。



【マヒワ】
全長約 12cm
ウトナイ湖では 11月~4月くらいまで見られる。ハンノキの実を目当てに来ていることがある。



【ツグミ】
全長約 24cm
ウトナイ湖では 11月~4月くらいまで見られる。ツルウメモドキの実を目当てに来ていることがある。

ウトナイいきもの図鑑

【オオワシ】

全長 89～102cm。翼開長 220～240cm。雌雄同色。

冬鳥として例年 11 月中旬頃飛来する。

成鳥は翼の前方が白く、成鳥、幼鳥ともにクチバシが黄色。

ウトナイ湖の対岸（南側）の木にとまっていることがある。厳冬期は結氷したウトナイ湖の上に座っていることもある。

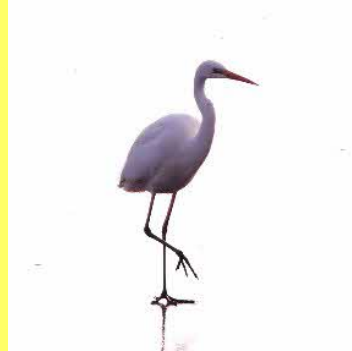


ウトナイ検定

*ウトナイ湖に関するクイズ

毎回、その月にあわせたテーマで出題しています。あなたもウトナイ博士になれる？かも。

Q. 秋から冬に見られることが多いダイサギ。写真は真冬のダイサギです。どこに立っている状態でしょう？



(あ)忍者のようにウトナイ湖の水の上に立っている

(い)ウトナイ湖の中の水草の上に乗っている

(う)凍ったウトナイ湖の上に立っている

答えは最後のページです。

傷病鳥獣ルームから



当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺（苫小牧市行政区域内）において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端を皆さんに知っていただくコーナーとして、ここでご紹介いたします。

サンカノゴイ

原因：不明

右の翼の骨が折れている



レントゲン写真



手術直後の様子

11月8日 2日ほど前から、弱った鳥がいると目撃されていたが、その後も動く様子がないとのことで保護され、当センターへ搬送される。

11月9日 初診にて、右翼と左足に出血外傷を確認。レントゲン検査では右翼の橈尺骨（とうしゃくこつ）と左足の中足骨（ちゅうそくこつ）に骨折を認めた。

傷口の状態から、けがをしてからすでに数日間経過していることがうかがえた。直ちに手術を施すも、容体は回復せず、翌日死亡にいたる。

11月10日 **死亡**

サンカノゴイ（ペリカン目 サギ科）

全長70cm。ずんぐりとした大きなサギ類です。ヨシやヌマガマなどが生える低層から中間湿原で生息しますが、北海道ではまれな夏鳥のため、観察難易度は高く野外で出会うには難しい種です。繁殖期の夜明け前後の数時間と日没後に、“ポォー、ポォー”“ウォー、ウォー”とよく響く大きな声で鳴きます。

お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖

12月11日(日) 10:30~11:30

※雨天時は、館内ガイドウォークに変更します。



レンジャーや当センターのボランティアが40分程、
屋外でウトナイ湖の自然を案内する無料のガイドウォークです。
(原則毎月、第2日曜日に開催予定です)



対象:どなたでも(小学生以下保護者同伴) / 参加費:無料
定員:先着10名程度 ※できる限り皆さまをご案内させていただきますので、お気軽に参加ください。
事前申込:なし。直接野生鳥獣保護センターへ

ボランティア体験講座 12月18日(日) 9:30~12:00

~センターのボランティア活動と初冬の自然情報収集調査体験~

当センターやボランティア活動の説明を行なった後、活動のひとつ「自然情報収集調査」を体験いただきます。シジュウカラ、ハシブトガラ、運が良ければ亜種シマエナガも記録できるかもしれません。調査が初めての方にも、分かりやすくお伝えしますので、ぜひお気軽にご参加ください。受講された方は、ボランティア登録いただくこともできます。



対象:高校生以上 / 参加費:無料 / 定員:10名(先着順)
申し込み:12月1日(木)9時~17日(土)17時まで。電話で当センターまたは直接窓口へ

市民ギャラリー

傷病鳥獣救護記録展 日時:11月29日(火)~2023年1月15日(日)

内容:今年1年間で保護された傷病鳥の一部をパネルで紹介いたします。
またこれに合わせて、クイズラリーも開催いたします。参加賞もあります♪



◆ウトナイ湖◆

周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。このためウトナイ湖は、国指定鳥獣保護区特別保護地区、ラムサール条約湿地、東アジア・オーストラリア地域渡り性水鳥重要生息地ネットワークに指定、登録されています。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆

環境省が「野生鳥獣との共生環境整備事業」により建設し、苫小牧市と共同管理する施設です。また、苫小牧市が業務の一部を(公財)日本野鳥の会に委託しています。

TEL. 0144-58-2231 / FAX. 0144-51-8600

〒059-1365 苫小牧市植苗156-26 / 入館無料 / 開館時間:午前9時~午後5時

答え:(う)凍ったウトナイ湖の上に立っている

ウトナイ湖は12月下旬から2月頃まで、ほぼ全面結氷します。凍った湖上には、ダイサギ、オジロワシ、オオワシ、オオハクチョウ(一部が越冬)などが見られることがあります。キタキツネが氷上を歩いていることもあるので探してみてくださいね。

公式SNSにて
情報を発信しています。ぜひ、ご覧ください。



Instagram



facebook



Twitter

